

学校だより



# 平沼

横浜市立平沼小学校

平成30年 8月31日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

## 啐啄同時

校長 長谷川 絹子



今年も記録的な猛暑日が続き、熱中症が心配される夏となりましたが、皆さん、元気に乗り切られたでしょうか。学校には、子どもたちの活気が無事戻ってきてうれしく思っています。

私は、お盆には毎年、姉夫婦が住む茨城の田舎に行き、のどかな自然の中でひたすらブルーベリー摘みをしながらリフレッシュしています。そして、今年もツバメのヒナの巣立ちに立ち会うことができました。田舎家の土間の天井に巣が作られており、3羽のヒナが黄色いくちばしを必死に開けて親を待ち、親ツバメは（きっと休む暇もなく）頻繁にエサを運んできていたそうです。姉は、一日家を空けるときにも、玄関の戸を開けたまま隣家に声をかけて出かけたということで、田舎ならではののどかさです。私が行ったときには、最後のヒナが親ツバメと飛び立っていきました。

ツバメの親子から「啐啄（そったく）同時」という言葉を思い出しました。「啐」とは雛がたまごの内側から殻をつつくことで、「啄」は親鳥が外側からつつくことだそうです。親鳥は雛が内側からつづく音を聞くと、外側からつついて助けてあげるということで、先に親鳥がつついて殻を割ってしまったら、雛は無事に生まれません。実際には、そのような行為はないらしく、師匠と弟子の関係を表す禅の言葉だそうです。

親鳥は助けるタイミングが大切で、雛の動きやつづく音をよく見極めなければならないということでしょう。学校でも日々の教育活動の中で、子どもの興味・関心や必要感が高まったときに、学習を進めたりアドバイスをしたりしてこそ、大きな成果が得られます。そのためにも、子どもたちのやる気スイッチが入るように、子どもにとって魅力のある、達成できそうだと期待感ももてる学習課題や目標の設定をしたり、知的好奇心や向上心を揺さぶる環境づくりをしたりと工夫しています。また、一人ひとりの様子を見極め、先回りしないように待つことや励ますことも大切です、しっかり見守っていきたくと努めています。

冬休みまでの4ヶ月間を100メートル走でたとえると、そこまでの動きやスピードを活かして加速させていく力が入る重要な時間です。雛が殻をつづく音をしっかりと聞き取るためにも、ご家庭のご支援、ご理解をいただきながら、共に子どもたちの成長を培っていきたくと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。